

講師×生徒の対談

予備校選びから合格までの 一年を振り返って・・・

講師 吉良…予備校選びで特に重視した点は、何でしたか。

生徒 岡田…はい、私は大手予備校のような大教室で講義を聞くような感じだと、集中力が途切れがちになることと、授業での疑問点をその場で質問して解決しなかったので、1クラス20名程度の少人数制予備校を第一候補に考えていました。

吉良…医学部専門の少人数制予備校は最近たくさんありますけど、その



中でわがメデユカパスを選んだ理由は何だったのでしょうか。

岡田…そうですね、まずはその高い合格率にひかれました。在籍全生徒の70~80%が医学部に進学する予備校は、他には見当たりませんでしたから。

吉良…他の予備校は選抜クラスのみだと高い合格率ですが、在籍生徒全員で考えると、50%もいかないことが多いと聞きます。

岡田…それと、どの予備校でもやっていない「Input-Output」の授業にも興味をもちました。

吉良…これはメデユカパスのもっとも特徴的なシステムで、4~5名のグループに分かれて、1人ずつ自分が以前解けなかった問題を前に出て解説するという授業です。

ちようど大学のゼミのようなものでしょうか。

岡田…私は今まで人前で話をする経験が少なく、最初はちゃんとできるかどうか、すごく不安でした。でもやっていくうちに、どんどん自分の説明がうまくなっていくことを実感しました。それに応じて、成績もぐんぐん伸びていきました。



吉良…このシステムは、自分で解説することで、本当の理解力をつけることができます。

また、聞いている生徒からもどんどん質問が来ますので、それにきちんと答えることで、より一層の理解が深まるのです。

岡田…この「Input-Output」のおかげで、人前で話すことにあまり抵抗がなくなりました。

また、2次試験の面接のときにも、しっかりと自分の意見を述べることができたと思います。

吉良…このように「Input-Output」は、学力だけではなく、2次試験対策にも役立つものとなっています。2次

試験対策といえば、毎朝の新聞のコラムの転記も役に立ったのではないですか。

岡田…はい、受験生をしていると、世の中の動きに鈍感になりがちなのですが、毎朝、新聞のコラムを読み、それを書き写すことで、世の中の動きや時事問題などの知識が自然と得られました。また、文章のプロが書くものをまねることによって、小論文を書く力も自然と養成されたのではないかと思います。

吉良…他に興味をひかれたものは何がありましたか。

岡田…はい、毎日授業後に行われる確認テストですね。前週の授業内容のテストが毎日あります。先生に、これでいい成績をとり続けた生徒は必ず医学部に合格していると言われたので、毎日本番並みの緊張感で臨みました。毎週各科目の成績上位者は掲示されるので名前が載るととてもうれしかったことを覚えています。

吉良…岡田君はよく名前が載ってましたね。この50分間の確認テストは、医学部入試の傾向をしっかりと踏まえたテキストの類題が出題されるのですが、この結果が最終的な医学部合